

□ 主な内容

【第 7 回 EST 交通環境大賞の結果を公表！】

EST 普及推進委員会では、「第 7 回 EST 交通環境大賞」の各賞を決定し、EST ポータルサイトにおいて公表いたしました。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2015_02.html

【第 9 回 EST 普及推進フォーラムの参加者募集中！】

EST 普及推進委員会では、2 月 22 日(月)に、第 9 回 EST 普及推進フォーラム「低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けて」を開催します。皆様の参加をお待ちしております。

<http://www.estfukyu.jp/forum9.html>

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 114 回)

●「バスがダメならデマンド型乗合交通？」

【東洋大学国際地域学部国際地域学科 教授 岡村 敏之】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 114 回)

●「路線バスとコミュニティバスの共生」

【名鉄バス株式会社 運輸部運輸計画課 サブリーダー 臼井 雅宏】

3. ニュース／トピック

●第 7 回 EST 交通環境大賞の結果について【EST 普及推進委員会、エコモ財団】

●第 9 回 EST 普及推進フォーラムのパンフレット・ポスター掲示の募集について【EST 普及推進委員会、エコモ財団】

●電気二輪自動車等の乗車人員を感電から保護する基準の新設等について【国土交通省】

●平成 28 年度 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業の公募について【環境省】

●第 4 回おおさか交通エコチャレンジ賞について【大阪自動車環境対策推進会議】

●市バスを情報通信基地とする実証実験について【神戸市】

●自転車走行空間実証実験について【京都市】

●「自動車交通研究 2015」の発刊について【公益財団法人日本交通政策研究会】

- モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2015 授賞者決定について【一般社団法人カーフリーデージャパン】
- 平成 27 年度省エネ大賞受賞者の決定について【一般財団法人省エネルギーセンター】
- 世界最大級の海岸沿い遊歩道の整備推進について【イギリス環境・食糧・農村地域省】
- 輸送部門の低炭素化のため技術開発と行動の変革が必要と報告【欧州環境省】

4. イベント情報

- 第 31 回 EST 創発セミナーin 堺市〔近畿〕【2016/2/10】
- 第 9 回 EST 普及推進フォーラム【2016/2/22】
- 2016 冬 公共交通フォーラム「まちづくりにおける回遊性向上とその効果を考える」【2016/1/30】
- CO2 削減ポテンシャル診断セミナー2016【2016/2/3、2/4、2/10、2/15、2/17】
- 公共交通活性化と地方再生に関する国際セミナー【2016/2/3】
- 地域公共交通セミナー「私たちが出来る公共交通の利用促進」【2016/2/8】
- 平成 27 度低炭素型交通社会づくりセミナー【2016/2/9】
- 路線バスの可能性を考えるシンポジウムin兵庫～交流人口拡大による地域活性化と地域住民の生活維持～【2016/2/15】
- 低炭素杯 2016【2016/2/16-17】
- ぐんま「まちづくり」ビジョンシンポジウムー地域公共交通の将来ー【2016/2/16】
- 第 9 回オンデマンド交通カンファレンス【2016/2/19】
- 京都スマートシティエキスポ 2016【2016/6/1-3】
- 第 11 回日本モビリティ・マネジメント会議【2016/7/15-16】

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 114 回)

●「バスがダメならデマンド型乗合交通？」

【東洋大学国際地域学部国際地域学科 教授 岡村 敏之】

バスなどの路線固定型の公共交通では移動のニーズを効率的に満たすことが難しい場合に、「予約があるときだけ運行」「面としてのサービスが可能」という特徴から、いわゆる「デマンド型乗合交通」が地域の生活の足を確保する「切り札」のひとつとされています。これには、運行エリアやおおまかな運行時刻が決まっている「バスに近い」タイプから、利用者が予約した乗降場所と希望時刻に配車される「タクシーに近い」タイプまで、多くのバリエーションがあります。

これがうまくいっているケースがある一方で、思っていたほど「切り札」とはなっていないケースも散見されます。とくに「タクシーに近いタイプ」にそれが多いように思います。地域の特性からやむを得ないような場合も多いとはいえ、導入事例が増えつつある中でいくつかの「失敗パターン」も見えてきたように感じます。

この種のデマンド交通は「複数の利用者が乗り合う」ことが可能なシステムですが、実際には同時刻で複数利用者が乗り合うことはあまりありません。1 人の乗客の平均乗車時間(距離)が短いケースでは、たとえ乗り合わなくとも時間あたりの利用者を増やすことができますが、迎車(回送)も含めた利用者 1 人あたりの平均走行距離(時間)が長い場合は、利用者が増えてくると予約が取れないことが増え、かといって増車は費用の増加につながるため対応できないという状況が生じます。一般的な公共交通は複数の人が乗り合うことで 1 人あたり費用が低くなりますが、乗り合いが発生しにくいこのシステムは、利用者増はそのまま総コスト増になるわけです。その結果、「利用者数が少なくて中止」となるか「利用者増がコスト増につながり拡張不可能となる」かのいずれかになりがちなのです。特に後者の場合は、利用者が増えてほしくないのが行政の「本音」となり、本当にそれを必要としている市民への周知活動を鈍らせることにさえつながります。

これは、あらゆるタイプの需要に対応できるというシステム上の長所に着目する一方で、システムの特性への理解が低いまま導入してしまった結果です。この場合は、「乗り合う」ことで一人あたり費用を低くすることが解決の道筋ですから、たとえば、移動の足をより必要としている人々のニーズに特化することで、時刻や地区をある程度固定したり運行曜日や本数を限定したりするなど運行をよりシンプルにする、シンプルな運行とすることで地域の「共助」により運行できるようにするなど、さまざまな方策があります。専門家の力も借りながら地域のあらゆる関係者で知恵を絞り、地域の移動の足を生み育ててほしいと思います。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 114 回)

●「路線バスとコミュニティバスの共生」

【名鉄バス株式会社 運輸部運輸計画課 サブリーダー 臼井 雅宏】

年々路線バスの利用者は減少傾向を辿り、廃止に追い込まれる路線も少なくありません。また交通弱者等の移動手段の確保という観点から、路線バスの廃止等によってできた公共交通空白地域を解消するため、市町村等が主体的に計画してバス事業者に運送を委託するいわゆる「コミュニティバス」という形で新たに運行する場合があります。その中で、弊社のひとつの事例をご紹介します。

愛知県稲沢市は、弊社路線バスと同市のコミュニティバスが混在する地域です。同市では、市民病院の移転に伴い、コミュニティバスの経路変更が検討が行われる一方で、弊社の路線バスも、運行経路上の道路が工事により長期間通行止となるため、迂回運行する必要性に迫られていました。その中で、路線バスの迂回経路がコミュニティバスの運行経路と一部区間で競合する形となったことから、同市より同じ系統を路線バスとコミュニティバスで共同運行する提案を受け、2014年11月から運行しています。

この共同運行化によるメリットとして、①比較的用户の多い区間の運行本数を増加させることができること、②コミュニティバスの運行は小型バスによるものが多いが、バス事業者の大型路線バス車両を利用して運行できること、③路線バスが導入している交通系ICカードをコミュニティバスにも導入して、利用者の利便性向上が期待できること等が挙げられます。

一方、デメリットとしては、共同運行区間の路線バス運賃をコミュニティバスの均一運賃にあわせて値下げしなければならないことや、バス事業者の自主路線ではなくなるためダイヤ変更等の自由度が低下すること等が挙げられます。

地域や路線の特性にもよりますが、一般的にコミュニティバスは公共交通空白地域での移動手段の確保が主たる目的であり、地域公共交通の主体は路線バスであるため、目的・性質の異なる事業の共同化は非常に困難です。しかし最も大切なことは、利用者にとって利用しやすい公共交通機関であるかどうかということです。利用者が減少すれば、バスの運行自体もままならないため、今後のバス事業を維持させていく上で、路線バス・コミュニティバス双方の利用者にとっての利便性を追求しながら、こうした新たな試みを追求・実現していくことが必要ではないかと考えます。

3. ニュース／トピック

●第7回 EST 交通環境大賞の結果について【EST 普及推進委員会、エコモ財団】

EST 普及推進委員会では、「第7回 EST 交通環境大賞」(主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団、後援:国土交通省、警察庁、環境省、一般社団法人日本自動車工業会、公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会)の各賞を決定し、公表しました。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2015_02.html

●第9回 EST 普及推進フォーラムのパンフレット・ポスター掲示の募集について【EST 普及推進委員会、エコモ財団】

EST 普及推進委員会では、2月22日(月)ルポール麴町「ロイヤルクリスタル」にて「第9回 EST 普及推進フォーラム 低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けて」を開催します。

<http://www.estfukyu.jp/forum9.html>

当日ロビーにてパンフレット・ポスター掲示を実施します。現在、その参加者を募集しておりますので、ご興味ございましたら【2/8(月)締切】で、以下までご連絡ください。

(株)オリエンタルコンサルタンツ(担当:佐藤・熊谷)

TEL:03-6311-7856 E-MAIL:kumagai@oriconsul.com

●電気二輪自動車等の乗車人員を感電から保護する基準の新設等について【国土交通省】

国土交通省では、自動車の安全基準について、国際的な整合を図り自動車の安全等を確保するため、拡充・強化等を順次進めています。今般、電気二輪自動車等における乗車人員の感電保護基準を新設するとともに、国際基準の国内採用を進めるため等、道路運送車両の保安基準(昭和26年運輸省令第67号)等を改正し、1月20日に公布、施行しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000197.html

●平成28年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業の公募について【環境省】

環境省では、将来的な地球温暖化対策の強化につながる技術開発・実証を、「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」により、実施しています。この度、平成28年度新規課題の公募を開始しました。公募期間は2月16日(火)までです。

<http://www.env.go.jp/press/101968.html>

●第4回おおさか交通エコチャレンジ賞について【大阪自動車環境対策推進会議】

大阪府・大阪市・堺市その他行政機関と自動車・運輸・流通分野の団体で構成する大阪自動車環境対策推進会議では、「おおさか交通エコチャレンジ推進運動」を実施しています。「エコカー使用等の推進」、「エコドライブの推進」、「公共交通機関利用の推進」の三部門について環境に配慮した自動車利用を推進する事業者を登録し、取組の支援を行っています。この度、これらの事業者の取組を「おおさか交通エコチャレンジ賞選考委員会」にて選考し、特に優れた取組を行った事業者を決定し表彰式を実施いたしました。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/kotsukankyo/haigasu/4th-premium.html>

●市バスを情報通信基地とする実証実験について【神戸市】

神戸市では、情報通信基地としての市バスの活用に関する実証実験の第一弾として、バスロケーションシステム実証実験を実施します。あわせて実証実験で得られたリアルタイムの市バス運行情報をオープンデータ化し、市民・企業・行政が一体となり、アプリ開発への取り組みなどを行います。今後、民間事業者の技術開発の進展を踏まえて、大規模災害時ににおける市バスによる緊急情報の伝達などに展開していく予定です。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2015/12/20151222040501.html>

●自転車走行空間実証実験について【京都市】

京都市では昨年3月に、誰もが自転車で安心して心地良く行き交うことができるまちを目指して「京都・新自転車計画」を策定し、安全でわかりやすい走行環境の整備を進めています。この度、走行環境の整備に先立ち、実際の道路上に矢羽根や自転車マーク等を設置することで、自転車等の通行状態を検証する実証実験を平成28年1月21日(木)から2月29日(月)まで行っています。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000192706.html>

●「自動車交通研究 2015」の発刊について【公益財団法人日本交通政策研究会】

公益財団法人日本交通政策研究会では、「自動車交通研究 2015」を発刊しました。自動車交通研究は、政策と研究の動向に関する主要項目について基本的データと最新情報が適宜選定された統計資料です。また、合わせて5年ぶりにその主要部分を英訳した「TRANSPORT POLICY IN PERSPECTIVE 2015」を発刊しました。海外の交通関係者、留学生などにわが国の交通政策の現状を紹介する資料としてご使用ください。

和文：<http://www.nikkoken.or.jp/perspective.html>

英文：<http://www.nikkoken.or.jp/english/index.html>

●モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2015 授賞者決定について【一般社団法人カーフリーデージャパン】

一般社団法人カーフリーデージャパンでは、モビリティウィーク&カーフリーデー2015において、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2015」として、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を決定しました。

<http://blog.goo.ne.jp/cfdjapan/e/1c9545c77279183fb90fd5f17b9abe55>

●平成 27 年度省エネ大賞受賞者の決定について【一般財団法人省エネルギーセンター】

省エネルギーセンターでは、平成 27 年度省エネ大賞(主催:一般財団法人省エネルギーセンター、後援:経済産業省)の各賞を決定し、公表しました。省エネ大賞は、国内において省エネルギーを推進している事業者及び省エネルギー性に優れた製品を開発した事業者の活動を広く共有するとともに、優れた取組を行っている事業者を表彰することにより、省エネルギー製品の普及促進、省エネルギー型社会の構築に寄与することを目的としています。

<http://www.eccj.or.jp/bigaward/winner15/index.html>

●世界最大級の海岸沿い遊歩道の整備推進について【イギリス環境・食糧・農村地域省】

イギリス環境・食糧・農村地域省は、イングランド全土の海岸沿いに遊歩道を整備するという進行中の事業の進捗を報告しました。この事業では、海に囲まれたイギリスの象徴的な自然景観をより身近なものにし、人々の健康と福利を増進するため、2020 年までに 2700 マイルにおよぶ世界最大級の海岸沿い遊歩道を整備することを目指しています。

<https://www.gov.uk/government/news/longest-stretch-of-englands-coastline-to-open-for-public>

●輸送部門の低炭素化のため技術開発と行動の変革が必要と報告【欧州環境省】

欧州環境庁は、輸送部門が環境へ及ぼす影響を軽減するために 2000 年以降に行ってきた取組の成果と今後の課題を報告しました。輸送部門は、2013 年には EU の温室効果ガス排出量の 4 分の 1 近くを占めたうえ、騒音や野生生物の生息地分断化など様々な問題を引き起こしています。

<http://www.eea.europa.eu/highlights/technological-solutions-and-behavioural-change>

4. イベント情報

● 第 31 回 EST 創発セミナーin 堺市〔近畿〕

日時:2016 年 2 月 10 日(水)13:30~16:55

場所:堺商工会議所 2 階 大会議室

主催:近畿運輸局、堺市、EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu43.html>

● 第 9 回 EST 普及推進フォーラム

日時:2016 年 2 月 22 日(月)13:30~17:00

場所:ルポール麴町 2 階「ロイヤルクリスタル」

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/forum9.html>

● 2016 冬 公共交通フォーラム「まちづくりにおける回遊性向上とその効果を考える」

日時:2016 年 1 月 30 日(土)13:30~16:45

場所:横浜みなと博物館 訓練センター第 1 教室

主催:横浜の公共交通活性化をめざす会

<http://lrt.cocolog-nifty.com/yokohama/2016/01/2016-4a1f.html>

● CO2 削減ポテンシャル診断セミナー2016

日時:(名古屋)2016 年 2 月 3 日(水)14:00~

(福岡)2016 年 2 月 4 日(木)14:00~

(広島)2016 年 2 月 10 日(水)14:00~

(東京)2016 年 2 月 17 日(水)14:30~

(大阪)2016 年 2 月 17 日(水)14:00~

場所:(名古屋)名古屋ダイヤビルディング 2 号館 243 会議室

(福岡)TKP 天神興銀ビル会議室

(広島)ホテル広島ガーデンパレス白鳥

(東京)WTC コンファレンスセンター38 階 フォンテーヌ

(大阪)TKP ガーデンシティ大阪梅田 バンケット 2A

主催:環境省

<http://www.env.go.jp/press/101848.html>

●公共交通活性化と地方再生に関する国際セミナー

日時:2016年2月3日(水)14:00~17:45

場所:ホテルメトロポリタンエドモント2階「悠久の間」

主催:一般財団法人運輸政策研究機構国際問題研究所

http://www.jterc.or.jp/topics/H27_topics.html#20160203

●地域公共交通セミナー「私たちが出来る公共交通の利用促進」

日時:2016年2月8日(月)13:15~15:15

場所:みえ市民活動ボランティアセンター

主催:三重県、中部運輸局三重運輸支局

<http://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/2016010217.htm>

●平成27度低炭素型交通社会づくりセミナー

日時:2016年2月9日(火)13:30~15:20

場所:青森国際ホテル

主催:青森県

<http://www.pref.aomori.lg.jp/nature/kankyo/teitansokotsu-shakaidukuri-2015.html>

●路線バスの可能性を考えるシンポジウムin兵庫～交流人口拡大による地域活性化と地域住民の生活維持～

日時:2016年2月15日(月)

場所:兵庫県民会館 けんみんホール

主催:近畿運輸局、一般財団法人近畿陸運協会、近畿バス団体協議会

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/press/files/1453252727.pdf>

●低炭素杯2016

日時:(1日目)2016年2月16日(火)13:00~17:00

(2日目)2016年2月17日(水)13:00~16:45

場所:日経ホール

主催:低炭素杯2016実行委員会

<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>

●ぐんま「まちづくり」ビジョンシンポジウムー地域公共交通の将来ー

日時:2016年2月16日(火)

場所:群馬県市町村会館 大研修室

主催:群馬県都市計画協会

<http://www.pref.gunma.jp/06/h5800286.html>

●第9回オンデマンド交通カンファレンス

日時:2016年2月19日(金)13:00~17:30

場所:東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト1階ホール

主催:オンデマンド交通協議会

<http://www.odtc.jp/conference.html>

●京都スマートシティエキスポ2016

日時:(1日目)2016年6月1日(水)10:00~17:30

(2日目)2016年6月2日(木)10:00~17:30

(3日目)2016年6月3日(金)10:00~16:30

場所:国立京都国際会館、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)ほか

主催:京都スマートシティエキスポ2016運営事務局

<http://expo.smartcity.kyoto/>

●第11回日本モビリティ・マネジメント会議

日時:2016年7月15日(金)、16日(土)

場所:松山市立子規記念博物館(道後温泉)

主催:一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<http://www.jcomm.or.jp/>

5. その他

●EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

2013年7月16日から募集を開始し、38団体が参加しています。

会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

●記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail:magazine@ecomor.jp(担当:熊井)

=====

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト:<http://www.estfukyu.jp/>